

## ユーサフ・カーシユ

「ユーサフ・カーシユほど数多くの偉人たちをカメラにおさめてきた写真家は他にありません（中略）。カーシユの行動半径は文字通り世界にまたがっている。彼の手になる肖像写真は現代史を側面から魅力的に照らし出す……」

## カナダ人物記⑫

一九六八年にボストン美術館（米マサチューセッツ州）のラスボーン館長が、同美術館でのカーシユ写真展「世界をつくる人々」に寄せたこの言葉は、巨匠カーシユの真骨頂をよく表わしている。

Faces of Destiny（一九

四六年）'Portraits of

Greatness（一九五九年）に始まる一連の写

真集におさめられたカーシユの作品には、チャーチルあり、ローマ法王あり、英国やモナコの皇族、ピカソ、アインシュタイン、ジャン・コクトー、ヘレン・ケラー、ケネディ、フルシチョフ、ブリジッド・バルドーありで、まさに二十世紀を代表する顔が、きら星のごとく並んでいる。

カーシユは一九〇八年十二月二十三日、トルコ領アルメニアのマルディンで生まれた。独立アルバニア共和国が一九二一年に崩壊したあと、写真屋のおじと共にカナダに移住。まもなくして、当時肖像写真家として名声を得ていたボストンのジョン・H・ガロのもとで修練を積む。

一九三二年、カナダの首都オタワにスタジオを開いたカーシユは、次第に才能を認められるようになり、やがて政府首脳や外国からの賓客が喜んで彼のレンズの前に立つことも珍しくなくなった。

しかし、彼の名を一挙に有名にしたのは、一九四一年十二月、オタワを訪れたチャーチル英首相の写真であった。そのときの模様を、カーシユはこう書き記している。

「彼は不興げに顔をしかめながら部屋に入ってきた。敵のドイツ軍を睨むかのような眼で私のカメラをじっと見た。彼の表情は完全に私の気に入った（中略）。ただ、口にくわえた葉巻だけは、そのような厳粛で儀式はった折にはどうもそぐわなかった。



ユーサフ・カーシユ

そこで私は何げなく葉巻をとりあげた。するとチャーチルは例のしかめっ面をいつそう歪め、首を威嚇し、前に突き出し、手を尻に当ててまざまざと怒りの表情を表わした。かくて、当時のイギリスの、挑戦的で不屈のイメージを表わす肖像写真となった。」

この写真は、ライフ誌の表紙を飾り、カーシユの名を一躍世界中に広めた。

第二次世界大戦中の一九四三年、カー

シユはカナダ政府の依頼で英国を訪れ、国王ジョージ六世やエリザベス王女をはじめ、当時の主だった人物を撮影した。

それを契機に、カーシユはモナコ、ノルウェー、ギリシャなどの皇族を写し、また政治、学問、社会、芸術などさまざまな分野で活躍する指導的人物をフィルムに収めてきた。

「どの人物の中にも、ある神秘的な要素が隠されており（中略）、（それは）無意識の身振りだとか目の輝きだとかのかたちで、あるいはすべての人間が彼らの内奥の自己を世間から隠すためにつけている仮面を脱ぐとき、ほんの一瞬のうちにやってくる。その瞬間の機会を促して写真家がシャッターを切るのだければ、作品は何の価値ももたない——という言い切るカーシユには、世界史の人物たちを身近に観察してきた人の確かな目がある。

カーシユは一九七〇年、大阪万博の写真顧問として来日したが、その折、万国博覧会委員会と全日本写真連盟の共催で「世界の巨匠ユーサフ・カーシユ写真展『世紀の肖像』」が開催されている。その後再来日したカーシユは、何人かの人間国宝を写して帰っていった。オタワのホテルにスタジオを構える写真家カーシユは、七十五歳の今も健在である。（文中の「」内は、曾根博義氏の訳を借用させていただいた。一部は意識した。）

## 編集後記

●カナダ——というと、雪と氷の白いイメージをもつ人が多いようです。事実カナダの冬は厳しく、ところによっては零下二、三十度というのも珍らしくありません。

●しかし、人々は家の中に閉じ込めてなどいません。職場も住居もセントラル・ヒートリングが完備し、シャツ一枚で暮らせるようになっていますが、戸外では大人も子供もスキー、スケート、カーリング、冬祭り……と、冬ならではのレクリエーションに余念がありません。交通や産業活動も、もちろん通常通りとはいきませんが、さまざまな工夫をほどこして、できるだけ支障のないようにしています。「カナダの冬」特集、いかがでしたでしょうか。

●愛読いただいた「われら姉妹都市」は、二応今回で中断します。ご協力下さった皆様に、心からお礼を申し上げます。他の姉妹都市については、折りをみて掲載する予定です。（吉田）

本紙中の意見や見解は、必ずしもカナダ政府またはカナダ大使館の考え方を反映するものではありません。また公式文書の翻訳は仮訳です。転載の際は、できるだけ出典を明らかにして下さい。ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

〒107東京都港区赤坂七丁目三三三三八

カナダ大使館広報部